コーヒーブレイク

ブラジル・レシフェのスタジアム

ブラジルW杯を観戦して

会員　白井 裕子（38 期）

2014年6月14日午後9時，私は，友人たちとブラジルＷ杯日本代表第１戦（コートジボワール戦）の試合会場レシフェのメインスタジアムにいました。

左手後方にはあのカズ（三浦知良）が雨なのにレインコートも着ずパリッとスーツを着て感慨深げにピッチを見つめていました。

午後10時（日本時間15日午前10時），怒涛の大歓声とともにキックオフ！ そして，前半16分，直前まで不調の本田が値千金の先制ゴール！ そのゴールは日本サポーター陣ばかりでなくスタジアム全体が賞賛する素晴らしいものでした。しかし，観ている私は，これで行ける！という感じが持てず不安で一杯でした。というのも，日本代表の動きが悪く，直前の埼玉スタジアムでの壮行試合やアメリカでの親善試合の時と明らかに違い，特に香川の気負い過ぎ（無理にドリブルで抜こうとして奪われリズムが崩れる）と自分たちの型にこだわりマークされているのに香川と本田に集めるパターンが気になりました。その不安は，後半相手エースのドログバの登場（この時の地鳴りのようなスタジアムの唸りは忘れられません）で的中してしまいました。あっけなく２点を取られ逆転負け。試合終了後は，正直Ｗ杯が終わってしまったかのようなやり切れない虚脱感（成田からダラス経由リオデジャネイロ経由でホテルのあるナタルまで約30時間，ホテルから試合会場までバスで片道約８時間もかけて応援にきましたから）に包まれました。

しかし，帰国後，失点の原因をビデオでチェックしましたが，テレビではあのドログバ登場の時のプレッシャーまでは伝わっておらず，改めて生観戦の楽しさを認識しました。また一時虚脱感に襲われたものの，帰国後決勝トーナメントの試合をテレビ観戦し，その素晴らしさ・充実感を味わうことができました。

ところで，私とサッカーとの出会いは，古くメキシコオリンピックでの日本の活躍とネルソン吉村のプレーに遡ります。そこで，サッカーの創造性，自由さ，楽しさを知り，その後，日本代表を応援し続け，2006年ドイツＷ杯のニュルンベルクでのクロアチア戦観戦後は，息子の影響もあり海外サッカーにも魅了され，2010年には当時世界最高と評されていたエルクラシコ（バルセロナとレアルマドリードの試合）観戦に息子とスペインまで出かけたりもしました。

そして，サッカーを通して副次的な楽しみや効能も得ました。第１に，サッカーは世界の歴史（特に民族戦争）と関係が深く世界の歴史を学べること，第２に，サッカー人口の多さから，サッカーは世界共通語であり得ること，第３に，Ｗ杯に関していえば，特に外国の選手や各国のサッカーの４年間の成長が見られ，世界サッカーの到達点（流行？）が分かること，第４に，日本代表戦に関していえば，スタジアム観戦後ビデオで再確認し，試合中のコメントや試合後の論評をみて，メディアや解説者と自分の感じたことの差異を知り，サッカー観が作れること，第５に，顧問先や依頼者との会話（雑談）でゴルフをしない人との雑談にサッカーの話ができること，最後に，娘と異なり，思春期の難しい（親との会話はウザイ！）時期に中学からサッカー部の息子とサッカーの話題だけは話が弾み，試合観戦だけでなく，サッカー選手の生き方を通して物事や仕事に取り組む際の真摯な姿勢や世界の貧困・民族問題・宗教・人種差別問題・サッカービジネス（経済）などを伝えることができ，子育てにも役立ったことです。

たかがサッカーのＷ杯ではありますが，スポーツを通して世界の国々の事情を知り理解することによって，平和や差別禁止に繋がるということは素晴らしいことであり，今後もサッカー観戦を通じて世界平和，差別等の人権問題により一層関心を持っていきたいと思います。